

# コメディカルスタッフのための 医用画像・生体機能情報の 理解と活用

講師

柴本 勇 先生

(聖隷クリストファー大学)

医療や福祉の現場では、目の前の「個人」に最適な支援を提供することが重要です。その方の人生を支える支援や活動を実現するためには、主観的な観察だけでなく、客観的なデータに基づいた「客観的理解」が欠かせません。医用画像や生体機能情報は、生体から得られる重要な情報です。それらを統合して現在の状態やリスク、負荷の程度などを具体的に検討するのが専門職です。本セミナーでは、CT・MRI・心電図・各種機能検査の診かたについて、基本的な知識や活用方法について解説し、個々に応じた適切なプログラムを立案する力を養うことを目指します。画像や生体情報から身体の状態を読み解き実施される根拠に基づいたアセスメントやプランは、患者様の安全を守るとともに、多職種との共通理解や適切な対応へと繋がります。今一度、基礎から学びたい方のご参加をお待ちしております。

## 5/1(金) 第1回 脳の構造画像（血管を含む）（CT・MRI）

脳の構造画像から障害を予測し、麻痺や高次脳機能障害の有無、予後を予測します。CTやMRIの読影基礎を学び、損傷部位がADL（日常生活動作）や各機能にどう影響するかを解説します。画像から具体的な支援計画、予後予測、プログラム立案に直結させる知識と技能を学びます。

## 5/8(金) 第2回 脳の機能画像と生理（fMRI・fNIRS・脳波・SPECT・PET）

脳の構造と機能は、それぞれ区別して考えることが重要です。構造が正常であっても機能しているとは限りません。脳機能を可視化する機器を用い、脳の反応や機能低下の背景にある脳機能を客観的に捉えます。脳機能の理解を生活活動や障害の理解に繋げる方法を学びます。

## 5/15(金) 第3回 呼吸器の構造と機能（胸部XP・CT・MRI・スパイロメトリー）

呼吸器の画像の特徴や、疾患による機能の変化などについて学びます。あわせて、運動耐容能の評価や呼吸能の理解、リハビリテーションプログラムの根拠について学びます。画像と機能の両面から、課題の負荷量やリスク管理を適切に判断できることを目指します。

## 5/22(金) 第4回 消化管の構造と機能（腹部XP・Manometry・超音波）

腹部画像の評価に加え、嚥下・消化管運動機能を可視化する方法を具体的に解説します。近年、栄養の重要性が広く指摘されていますが、その基盤となる消化器の構造理解と機能理解について画像や機能所見から学びます。

## 5/29(金) 第5回 循環器の構造と機能（心電図・胸部XP・心エコー・冠動脈CT）

循環動態は、生命を維持するうえで重要な役割を担っています。活動内容や負荷量の検討では循環動態の理解が欠かせません。その具体的な検討においては、印象評価ではなく客観的評価や情報をもとに行うことが重要です。個々の循環動態を多角的に捉えるための方法について学びます。

【開催時間】 19:00～20:15

【参加費】 1講座につき 当研究所会員 1,000円 非会員3,000円

【申込方法】 右記のQRコードからお申込みください。

\*詳しくは下記のホームページ<https://fc-science.or.jp>をご覧ください。

